

茶話

SAWA

日本茶インストラクター
協会熊本県支部会報

平成20年11月25日発行

第22号

お茶まつり大特集 Part I

県支部の底力を発揮！ 『全国お茶まつり熊本大会』 グランメッセ熊本で開催

10月3日から5日までグランメッセ熊本において「全国お茶まつり」が開催されました。特に5日の消費拡大イベント「う

まか茶大集合」については、これまでの茶業関係者中心のイベントとは異なり、消費者に茶の情報を発信しようというコンセプトで開催されました。私たち県支部は、消費者との対話を通してお茶の楽しみ方を提案しましたが、その果たした役割は大きく、イベントが大成功をおさめる鍵を握っていたのは間違いないと思われま

活動総括 支部長 杉本隆之

熊本県支部が一年がかりで取り組んできた「全国お茶まつり」は大成功に終わりました。特に、お茶カフェは予約で全ての茶券は完売という大盛況でした。嬉しい誤算でした。晩茶班、香りの銘茶班、プレミアム班、そしてステージ班、T1グランプリ

と人手が足りず、インストラクターやアドバイザーの知人友人のボランティア40名以上の方が手伝いに駆けつけてくれました。参加された皆さん、お疲れ様でした。休み無しのお昼もろくに食べることが出来なかったかと思いません。申し訳ないです。

ステージイベントで開催したお茶の魅力伝え隊やエキシビジョン大会にも、多くの方がその熱弁にじっと聞いておられました。また、心配していたT1グランプリも賑わいました。良かったです。その応援に、遠くは茨城県から3人の方がお手伝いいただきました。

前日の全国支部長会議では、熊本県支部の「全国お茶まつり」に対する取り組みを紹介しました。他県支部長の皆さんは、県支部のモチベーションの高さと情熱に感心されていました。

このイベントの成功は、熊本県支部会員の皆さんと応援していただいた方々のお陰だと思えます。本当に、ありがとうございました。



『全国お茶まつり熊本大会』

各ブースからの感動報告

ステージ、晩茶ブース編

ステージ進行(ステージ)

副支部長 市川辰太

十月五日のお茶まつり、大変お疲れさまでした。1年間の努力が実を結び、大成功となりました。これも、支部を支えてくれた会員の皆様の結果だと感謝しております。

私はステージの担当でしたが、ステージにご協力頂きました各支部長さまにはお忙しい中ご協力頂きありがとうございます。そしてスタッフ・音響の方々には本当にありがとうございます。た。

このお茶まつりはこれからの茶業にかかわる人間として、とても学ぶべき多き一日でした。ステージ側からお茶カフェを見ていたとき、支部会員をはじめそれ以外の方が一生懸命にお客さまを接客や裏方をされて、ほんとうに申し訳ない気持ちで一杯になりました。

本来ならば、茶業に関わる・茶で飯を食っている人間こそが、今の茶業の現状を感じて多くのメンバーを寄せ、お客さまに日頃の感謝の気持ちを込めて行うのが本場の形だと思えました。これまでは、お茶は何もしなくても売れる時代が続いていましたが時代の変化とともにお茶

業界は危機に至っています。その原因も自分自身も含め、今まで、何もしてこなかった。何もしなくても売れていた。そのツケやおごりが今の茶業界の理由とも言えます。しかし、今回のイベントを見てもう一度基本にもどってお茶を呈茶することが大事だと感じました。それを教えてくれたのが協会メンバーや茶業関係以外の方達の一生懸命な姿でした。

「今が良くても必ずそのツケは次の世代に来ること」を認識して、皆さんと楽しく頑張っていくかと思えます。宜しくお願い致します。

T-1グランプリ(ステージ)

「子供達の真剣な眼差しが忘れられない」

堀野裕一朗

全国お茶まつり熊本大会において、子ども達が参加する「T-1グランプリ」を開催しました。都城の若手茶商が企画したこのムーブメントは、多くの人に感動を与える緑茶普及の原点のような気がします。当日も県内の茶生産者の皆様をはじめ、宮崎、鹿児島、福岡の若手茶商が集い、本大会に参加して頂きました。また、茨城の茶生産者の皆様にも多く駆けつけて頂きました。彼らの援助なくして本大会は成功できなかったといっても過言ではないくらいです。心から感謝申し上げます。

このT-1のすばらしさは、子どもが真剣にお茶を淹れると

いうことです。テレビのコメントにもございましたが、「どうやって淹れてよいか大人でも迷うところを子ども達に教えてもらった気がします。」この子ども達が大人へ教えるという現象をいかに広げていくかというのがリーフ茶普及の第一歩のような気がします。

お茶の知識を問うクイズやお茶の淹れ方などはほぼ満点に近い出来でございました。保護者の方も「子どもからお茶を淹れてもらうことがこんなに素晴らしいこととは初めて知りました。」という感想も頂戴しました。今後、多くの場所で開催されていくとは思いますが、熊本の地でも継続事業として積極的に取り組んで参りたいと思います。

晩茶紹介コーナー(晩茶ブース)

市来 真

全国お茶まつりの当日はあいにくの雨、されど私達にとつては気持ち快晴。何せ、準備してきたものを伝えられる喜び大きく、精一杯でした。珍しい晩茶コーナー担当でしたが、オープンと同時にお茶に興味ある人達や全国のインストラクター仲間から飛び交う質問、問い合わせに合い、午前中はしゃべりっぱなし、声が枯れて我ながら苦笑い。準備した晩茶セット200袋、利用してくださるかなど心配しつつ用意した生葉300束併せて紹介できたと思います。特に若い世代の方が晩茶に興

味を持つてくださり、驚きと新鮮さを覚え「よかたい」と。それぞれ各家庭でマイ晩茶を楽しめるのだからうなとホクホク。体感した事つて、とても心に残ると考えるし、更なる興味を抱いてくださることを願いつつ、そして伝えることのエネルギーの必要さに改めて実感も出来た気がします。何はともあれ、少しでも、こうして広がっていくだろう事を期待できた喜びは大。皆さんの力あわせできた証。皆さま、本当にお疲れさま。そしてよく張り切ってくださいました。丸、です。

初の「釜炒り茶フォーラム」開催

全国お茶まつりでは、各茶産地のPRを目的としたイベントが中心でしたが、学術的な見地から、また歴史的背景、生産・流通・消費現場の現状という特定の茶種の抱える問題を浮き彫りにしたシンポジウムは初めての試みでした。2面に渡り掲載しました。



『釜炒り茶フォーラム』

この裏話は反省会で披露しました。坂本孝義

全国お茶まつり熊本大会には、県産茶のPRと茶の需要拡大という1つの目的がありました。熊本茶の特徴を挙げるならば、煎茶・蒸し製玉緑茶・釜炒り茶の三茶種が作られている事ですが、全国的な視点で観ると熊本は釜炒り茶の主要な産地の一つです。釜炒り茶の主要な産地で開催される全国お茶まつりで、釜炒り茶をテーマにしたイベントを行わないで何処でする、釜炒り茶の主要な産地のインストラクターが釜炒り茶を語らないで誰が語る、そのような思いに駆られ「釜炒り茶フォーラム」を提案しました。

私達の活動目的は日本茶の理解促進と普及、そして日本茶を通して地域社会への貢献にあります。釜炒り茶の理解促進と普及は釜炒り茶産地の私たちが取り組むべきことと考えています。

さて、日本茶業中央会編『茶ダイジエスト』に、熊本茶は「産地は九州山脈の深山溪谷から人吉盆地につながる地域」と紹介してありますが、熊本には深山溪谷はありません。誤った情報が提供されていることも問題ですが、それ以上に誤りを改めようという産地の姿勢にも問題があります。

私は産地からの情報発信が必要拡大や銘柄確立に繋がると確信していますが、釜炒り茶についてもしかり、「釜炒り茶産地から釜炒り茶の情報を発信しよう」とフォーラムを提案させていただきます。

(茶話22号パートIIへ続く)